

ちよつとだけ帰ってきた

もっと知ろう!!

ふじわらのすけまさ

とうのべんじょう

～藤原佐理と重要美術品《頭弁帖》のひみつ～



ふじわらのすけまさ
藤原佐理

しよびー
書美

参考文献

島谷弘幸「三蹟の書と和様の展開」『王朝の名筆—三蹟を中心として—』図録

高橋哲也「藤原佐理筆書状《頭弁帖》について」 ふくやま美術館・ふくやま書道美術館研究紀要第5号

藤原佐理は944年に
平安貴族の子として
生まれました。



実は坊っちゃんなのだ

961年、18才の時に
昇殿を許され、
朝廷の書き役を任されます。

書の腕前は
「日本一の御手」と
讃えられました。



「書を書いてほしい」と
神様から頼まれたり



書かないと
帰してくれない

宋の皇帝へ書が献上されたりと

日本の
佐理の書です



照れるナ

佐理の名筆を伝える逸話が
数多く残されています。



ただ、宮仕えには
向いていなかったようで…



現存する書の半分以上が
なんと詫び状！

国宝



上司に
挨拶せずに
転勤

宴会で
上司より早く
帰宅

儀式の
道具に
不満が

詫び状が国宝になるのも
佐理ならでは。



平安時代に和様の書を
確立した三蹟のひとりと
しても有名です。



藤原行成
(972～1027)



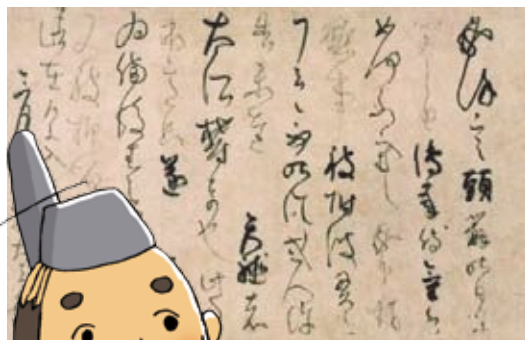
藤原佐理
(944～998)



小野道風
(894～967)

【三蹟の覚え方】
サリーちゃんのパパが
(佐理)
豆腐を買っぜ
(道風) (行成)

「頭弁帖」は、998年
佐理が55才のときに
書かれた手紙です。



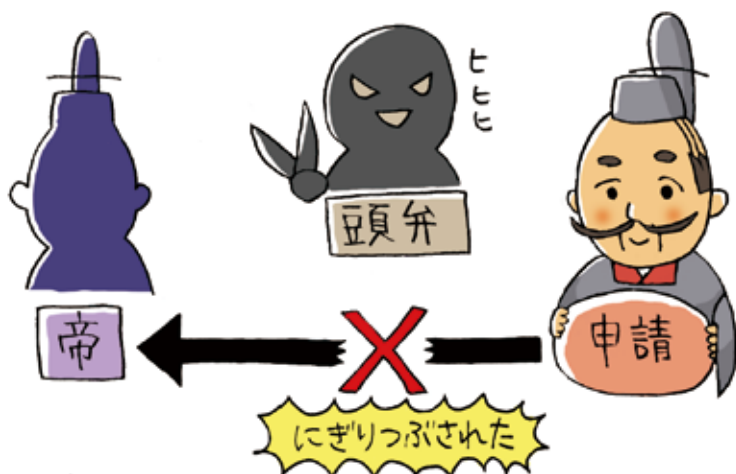
この手紙には、
佐理の無念な思いが
書きつづられています。

佐理謹言。頭弁昨日参
閣之由、伝承侍。
如何、不審。
雑事、被附彼貫主
了、云々。而、昨従或人許

【意識】

佐理が謹んで申し上げます。
私の申請した用件は頭弁に
処理されたと聞きましたが、
帝の耳まで達していないとの
ことです。

途中で頭弁によって申請が
留められてしまったのです。
ただ帝に私の思いを
お伝えしたかっただけなのに。



佐理の申請を留めた頭弁は
誰だったのでしょうか。



三蹟のひとりである
藤原行成という説が
有力です。

この他にも「頭弁帖」には
多くの謎が残されています。

の申請の内容とは？



の行動の目的とは？



この手紙を書いた4カ月後、
佐理は流行り病にかかり
この世を去りました。



「頭弁帖」は、最晩年の
佐理の人生を締めくくる
書といえるでしょう。

